

## 地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
  - (1) 一人ひとりの尊重
  - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
  - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
  - (4) 安心と安全を支える支援
  - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
  - (1) 居心地のよい環境づくり
  - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

### V. サービスの成果

#### ※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

#### ※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 社会福祉法人ふるさと自然村 グループホームやす

ユニット名 ゆり・すずらん

自己評価実施年月日 平成 19年6月30 日

記録者氏名 小原 瑞江

記録年月日 平成19 年7月2日

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者・職員と「共に過ごす生活」温かみのある「我が家」をめざす。 安全と安心・落ち着いて過ごせる場の提供。	○	日々の生活の中で利用者・職員間の馴染みの関係を作り安心して暮らせる生活の場を作りたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	名札の裏に理念のカードを入れ、意識付けをし、日常的に申送の時などに話し合っている。	○	些細な訴えにも必ず傾聴する。日常の生活を把握する事で、異常の早期発見に努める。何時も変わらず笑顔で接するように心がける。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	契約時に理念について説明し、面会時や訪問者の方にも分かるように、ホームの玄関に掲示している。	○	地域の方にも理解していただけるようにパンフレットの作成、配布したり、定期的に家族と交流、意見交換の場を持ちたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出勤・退勤時近隣の人に逢ったときは必ず挨拶をする。近くの神社への参拝を通して草引き等できる事を少しずつして行く。	○	近隣の方に逢った時は必ず会釈や声かけをして行く、又、ホーム内での取り組みやケアなど地域の方に理解して頂けるように広報誌などを作成し配布して行きたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の他の施設や、小学校の運動会への参加やボランティアの訪問等があれば受け入れて行きたい。	○	地域行事への積極的参加をして行きたい。地域の子供や近隣の方たちとの交流を通してグループホームを理解してもらいたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員間で話し合いはしているがまだ出来ていない	○	地域への積極的な働きかけをして行き、運動会や催し物への参加等の情報を発信してもらおう。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設の上げる理念やその方法について理解しているか話し合う。外部評価については皆に徹底している、利用者の方のサービス向上であり、理念どうりにサービスが提供されているか、又改善されているか。	○	朝の申送時、ミーティングの時間を通して理念を理解し業務を遂行していく事を、共通目的としてこれからも続けて行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族又市の職員、民生委員などの意見や助言を頂きサービスの向上に活かしている。		運営会議がサービスの向上になるように続けて行きたい。
9	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営会議以外にも市町村担当者の下へ出向き情報を貰っている。	○	市町村の担当者の方と積極的に働きかけ、サービスの向上に繋げて行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の意向を尊重し強制しない。タイミングを見て清潔援助を積極的にする。その人に合った食事の提供をする。	○	利用者の人権や高齢者の尊厳を守るとはどのような事かなどについて勉強会を持ち、また、ミーティングのときなどに話し合い、職員全員に浸透するようにしたいと思います。又成年後見制度についても職員が学べるように検討したい。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	体罰だけが虐待ではなく、言葉や態度、その人を無視することなども虐待に繋がる事を申送のときなどに話している。	○	勉強会やミーティングを通して虐待について職員全員が理解できるようにして行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時内容の説明をし、不明な点や疑問に思う点などについて説明を行い理解、納得を図っている。	○	利用者のご家族の不安な事や疑問に思う事を表出しやすい雰囲気の間をつくり、十分な説明を行い、理解と納得を図っていききたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の訴えは傾聴し職員間で話し合いサービスの向上に努め運営に反映している。	○	ご家族が面会などに来られた時に不満や苦情を話してないか等を尋ねるように又、話せるような雰囲気をつくっていききたい。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の時や電話でホームでの暮らしぶりや健康状態、金銭管理については報告している。		広報誌や日常の生活状況を、定期的に行って行きたいと思います。
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談窓口については説明している、又面会に来られた時に伺うようにしている。	○	ゆっくり家族の話を聴く機会を持てるようにして行きたい、家族会等もち信頼関係を築き、話しやすい雰囲気をつくって行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンスにて職員の提案や意見を聞いて職員間で話し合い運営に反映させている。	○	職員全員が意見を言え、提案が出来るようにしたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	人員が不足しないように状況に応じた調整をしている。	○	状況に応じた職員の調整をし、利用者やご家族の要望に対応できるようにしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員が顔馴染みになるまでは積極的な関わりを避ける。		新入社員には顔馴染みになるまでは、介護や話かけを積極的にしないように指導をし利用者へのダメージを防いでいる。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修の情報は月1~2回ぐらいあり、又外部での研修も段階に応じて、研修を受けれるように情報の提供はできている。		研修は個々の段階に応じ受講が出来る機会を確保し情報の提供をしている。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流を持ちサービス向上に繋げたい。	○	他のグループホームへの見学や勉強に職員が持てる機会を検討したい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みやストレスには、いつでも相談できるようになっている。又、旅行や食事会などでストレスの軽減を図っている。		職員の不満など話を聴く機会を持ち、ストレスの原因を知ることで助言など行って行きたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力や実績は勉強会の出席、日々の仕事の取り組みなどより把握している。		各種の講演、講習の情報提供を行い支援している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の訴えを傾聴し、共感するよう心がけよりそう子持ちで接し信頼関係を築いて行く。	○	信頼関係が出来るように、ゆっくり話す機会を持ち、本人の気持ちを、希望や不安な事につけないか聞くようにする。
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族が困っていること、不安な事、求めていること等をよく機会をつくり、受け止める努力をしている	契約時の面家時に家族の困っている事、不安に思っている事、望んでいることを受け止める	○	契約時にゆっくり話を傾聴できる機会を持てるように努めたい。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望や本人の生活暦を聞くことで、必要なサービスについて相談している。		本人と家族の話を傾聴することで、本人や家族がなにを望んでいるかを見極める。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族より施設に来られる前、居宅での様子など情報を得、又他の利用者との間に職員が入り馴染みの関係を作り、趣味などを活かしたサービスの取組みをしている。		個々の情報、趣味などを職員が把握し、職員間の情報を密にして情報の共有をして工夫できるようにする。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	園芸や歌、昔の出来事など利用者より学び、		利用者の個々の能力を見出しす為、一緒に生活するメリットを生かし生活のリズムを掴む。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者との関係を重視する為には、家族との関係、思い等を知り、職員と家族の信頼関係を築いて行く。	○	利用以前の生活の状況や、本人や家族の望むものは何かなどを知り、相互理解と協力を得るようにして行きたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の思いや考える事等を家族に話し、理解と協力を得るように働きかける。	○	利用者の一方向的な話を聴くだけでなく、家族の思いや、家庭での状況を知り、できるだけ利用者の満足得るような働きかけをして行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会を継続して行くことを支援する。場合によっては電話や手紙などの代理行為を行う。		出来るだけ利用者の希望を叶える事、電話などは相手がでられたら替わりお互いに会話できるように配慮する。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中で馴染みの関係が出来ることで、安心を得られるよう支援又、トラブル関係については常に注意して距離を置くようにしている。	○	食事や行事には一人ひとりの状態を、把握して孤立する人ないように声かけや誘いだしを行い、目配り、気配りなどの気づきを大切にしたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても必要な場合は相談できるように説明して行きたい。	○	契約終了したから終わりではなく、定期的に連絡をし現在の状況を聞くなどをして行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	例えば、食事を摂りたいが歯がないために、普通食が摂れない利用者に対して、軟飯菜、キザミ菜、ミキサー食を本人の意向に添って変えて行く等をおこない満足度を得ている。	食事が満足に摂れず、排泄や睡眠に影響が出た為、利用者本人との話し合いにより希望を入れて改善したが、一人ひとりの思いや要求を受け入れる事の大切さを学んだ。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時、面会時に来られた時などにどのような生活、仕事されていたかまた、趣味などについての情報を得把握する。	家族の面会時にゆっくり話す機会を持ち情報を得られるように、また、散歩時などの時に会話の中で情報を得ている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活記録や、介護日誌、情報シート、連絡ノートなどを活用し、又、口頭での申送により共有している。	各種記録を必ず全員が目を通し、情報得るようにしている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	契約の時や面会の時などに家族の要望を聴き、又日常の生活の中で利用者との関わりより、職員と話し合い作成している。	○ 家族の協力が得られるように努め、本人とも話し合って生きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行い、現状に即した計画を作成している。	利用者本人や家族からの情報を取り入れ職員と検討し個別性を重視した計画を作成する。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、介護日誌、連絡ノートなどに日々の生活状況を記録し情報を共有している。		入浴、排泄（便、尿）食事摂取状況等を経時的に記録し、健康状態や心身の状態把握に努める、ケアプラン等に活用して行きたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月2回の往診、連携医療機関への受診や歯科の往診利用者の状況に応じた対応をしている。		病気や身体不調時は家族の希望により対応をおこなっている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の状態により救急車の要請や民生委員などの協力を得ている。また、小学校、老健やケアハウスなどの協力も得ている。	○	ボランティア、幼稚園などとの協力が得られるようにして行きたい。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居希望者の情報を他の居宅支援事業者、他の施設のSW、老健施設やケアマネジャーと連携をとっている。		入居希望される方の情報を他の施設のSWや地域のケアマネジャーから受ける。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営委員会で行っているが地域包括センターに向いて色々の情報をもらうようにする。	○	積極的に、地域包括支援センターに働きかけて協働できるようにして行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の主治医の往診を受けている。又疾病により必要が生じた場合は連携病院や他の病院へ受診するよう支援している。		往診時に病状や生活状況の報告を行い必要な薬剤や他の医療機関への紹介をしている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	連携病院の医師の受診や助言は貰っている、又認知症が進行した場合などは医師より専門医を紹介する体制は出来ている。		家族に専門医についての情報は提供している。今後も提供して行きたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ほぼ毎日利用者の状況を把握し週1~2回又随時バイタルを測定し健康状態の把握を行い、必要時は医療機関の受診を支援している。		バイタルチェック、会話等を通じて健康状態を把握し、異常の早期発見に努め医療機関との連携を図る。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居時の生活状況の情報提供を行い、医療機関との密な連携により早期退院に向けての支援をしている。		利用者が入院した時は電話での情報や出向いての情報を得て早期に退院できるように医療機関との連携を図っている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化した時については、家族と契約の時に話しをしてその時の要望についての話はしている、又医師や職員にも話している。	○	重症化した時の家族の要望や本人の希望についての聞き取りの書類について検討中である。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今までは重症化すると家族の希望で病院への搬送入院である。現在は本人、家族の望む方向で支援している。	○	我が家となり落ち着いて過ごせる利用者には、本人、家族と相談の上、望むようであれば終末期の援助も出来るよう医療との連携を図って行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設や入院をした場合はサマリーなどによる情報交換を行いダメージを防ぐことに努めている。		十分な情報提供や関係者間での情報交換を行っていく。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴も人前で言われる事を嫌う人もいる事を把握し誘導している、排尿の誘導も傍に行き他の利用者にわからないように誘導するなどを配慮している。記録も氏名を記載しないようにしている。		入浴も一人で出来る言われる方については危険のないように工夫をして見守りを行う。又は訪室時は必ずノックをすることを忘れない。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日中の行事を行う場合、無理強いせず誘う、又何をどうしたいか意向を聞きだしやれる事に参加するように支援する。		食事やおやつ希望をチラシや料理の本で選んで貰ったりして希望を取り入れたりしている。ドライブや散歩など行く時無理強いはいしない。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	園芸、散歩、歌や塗り絵など個々人が好きなことをして生活をされているが夜間の睡眠が足りないような方は日中の臥床を支援する。		毎日散歩に行かれる方については決まった行き先やコースの変更は利用者と相談して決める。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日起床、就寝時は着替える、日中は私服で過ごしていただく。又希望者には出張美容師による散髪をする。又家族の協力で理容、美容院へいつている。		身だしなみにより入居者が不利益をこうむる事のないよう、散歩に行く時や施設外のレクレーションに行く時は特に注意する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材選びなどチラシで選んだり、食膳のテーブル拭き等職員と共に出来ることはしている。又食膳にメニューなどを知らせ食事を楽しむ雰囲気をつくる。		食事介助の必要な方も他の利用者と同席する事で食事に楽しみ抱き自力摂取できるように、又義歯のない人の食事形態を工夫したり、一人一人に合った方法を考慮する。
55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや水分の補給時や飲み物については本人の意向を聞いているが、現在タバコやお酒については希望する入居者がいない。		水分補給は大切な援助だと言うことを職員間で共通認識をもち、個々人に合った時間に飲み物を用意する。又その日にある物でメニューを作りバイキング形式を検討している。
56	○気持よい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間毎に声かけや誘導を行う。又排泄の意思表示やサインを見逃さず出来る限り排泄の自立を目指す。	○	一人一人の排泄のパターンを理解し、まめに声かけを行う。夏に向けてリハビリパンツを外して行きたいと、職員間で検討している。又家族の協力を得て行きたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができる対制は整えている。入浴を嫌がる人についてはタイミングを逃さず、その気になるよう働きかけ時間に関係なく入浴の支援をする。		入浴はしんどい、恥ずかしいから入浴しない等、色々の理由で拒否する人については色々話題を変えたり、タイミングを見計らったりして、出きるだけ1週に1回ぐらいの入浴をしてもらいたい。
58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就床のタイミングを個々に把握して声かけを行う、巡視時には室温の調節や寝具の調整、排泄の有無、水分摂取の希望等、細やかな配慮を行い安眠を支援する。		就眠の状況の確認や自力排泄の安全性に留意する、又パット交換等を行い気持ちよく睡眠が得られるようにしている。尿汚染時は清拭を行い不快感を除く、室温、寝具の調整にも配慮する。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸、散歩、歌や塗り絵など個々人が好きなことをして過ごされているが、洗濯物をたたんだり、食事前のテーブル拭きや後片付けなどできる事を職員と共にしている。曲に合わせて踊ったりなど自由に過ごされている。	○	ほとんど毎日散歩に行き外気浴をしたり、ドライブに行ったりして外気に触れたり、季節ごとの行事を計画しそれに向けて準備をしたり話あつたりで楽しみが共有できるようにして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によりお金を持っている方や、家族が遠方の方ではお預かりしている方等は一緒に買い物に行ったり買い物をする喜びの支援をしている。	○	買い物は一部の方に限られている、おかず等の買い物は多くの方が行けるように検討したい。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課の中に散歩取り入れて、出発前に参加者を募る。又希望時はドライブ等随時行っている。庭の散歩を朝、夕する際は付き添っている。		近くの神社に散歩コースがあり帽子を被って人数を募り職員と一緒にいる。又神社の草引きをしたり涼しい所で休んだり楽しむ。随時ドライブを行い戸外に出られるように支援している。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	桜の花や紫陽花の花の見学など季節を感じたり外気に触れる行事は行っている。	○	季節により花見に行く計画を立て、分散した車の手配を行い、野外レクを計画し家族にも連絡し参加をしていただきたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もいて自由にかけている。又電話の希望時は電話の取次ぎをしたり、手紙のやり取りも出来るように支援している。		はがきの購入時は付き添い、電話の取次ぎも行っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は制限してなく、又来られた時には遠慮せずゆっくり過ごせるように、居室に案内したり環境を整える。	○	訪問された方が気持ちよく過ごせるよう対応に気配りをする。又利用者に声をかけ訪問と一緒に喜んだり、利用者の家に来た感覚で訪問できるような雰囲気づくりをしていきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないを原則としている。利用者の状態を把握して個々人の生活に寄り添っていくように職員で情報の共有をしている。		門扉の鍵をしないを原則としている。身体拘束についての勉強会など積極的に行くよう情報提供を行い、又随時職員には話している。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉はam8：00～pm17：00までは施錠はしないが国道が近く車の往来が多く常に注意が必要である。		国道が目の前で利用者が出られたときの危険も大きい為、常に出入り口のチャイムや利用者の動きには注意を払い、神経を使い危険行為がないように支援している。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を問わず常に利用者の言動を視野内に置き安全に配慮している。		常に利用者の言動が観察できるような職員配置を行い、転倒や異食などの危険行為等を回避して安全を図る。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人一人の習慣や癖を知り生活に合わせた物品管理を行う。包丁など目に見えない場所に保管する等。又薬については手の届かない見えない場所に保管している。倉庫等の危険な場所の施錠の確認をする。		個々の身の回りの物品はできるだけ利用者の身近に置くようにしているが、異食のある方については危険なものは家族の理解を得て保管する。又危険箇所の安全管理をしっかりと行う。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の言動を把握し情報の共有により事故防止を図る。又火災訓練により職員全員が消火器を使用できるように訓練する。歩行の不安定な方は付き添う、誤薬については確認を怠らない又名前と顔が一致しない場合は服薬の支援をしない。	○	窒息の予防については、嚥下体操をとりいれ訓練することで防いで行きたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応のマニュアルは作成し、指導、訓練をする。	○	応急手当や初期対応が職員全員ができるように訓練を実施できるようにする。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災は消防立会いの下訓練の実施はしているが。	○	地域の方の協力が得られるように、積極的に働きかけて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	門扉や玄関の施錠をしない事によるリスクや転倒のリスク、入浴をしないリスク等について契約時や面会時、電話等で話をしている。		契約時や面会時又電話等でリスクについて話あっている。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の状況を生活記録や介護日誌、又連絡ノートに記載する等、口頭で連絡し情報を共有し対応している。	○	個々の日常の状況を把握し、体調の変化や異常の早期発見に努めるよう気付きを大切にする。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の目的、副作用、用量については説明し、新しく与薬された薬については作用や副作用について話し注意のいる物についても話している。	○	日々薬の作用、副作用について状況を把握するように説明しその確認をしている。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操への参加や、入浴、腹部のマッサージ、又繊維の多く含まれる食事や牛乳等で対応している。どうしても駄目なときは医師に相談する。	○	可能な限り薬を使用せず便秘にならないように、日々の生活を考慮するよう気がける。研修資料などの利用をする。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の声かけ、見守り、必要な場合は介助している。		毎食後の口腔ケアを個々人に合った方法で支援している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の献立に利用者の意見を取り入れて、出きるだけ個々の好みに合った食事を提供と十分な水分摂取をする。1200ml～1500mlを目標に。		食事のチェックをし食材の考慮や料理法を考慮する。又食事の形態を考える。肉、魚や野菜等豊富な食材を使用しバランスを考える。また毎食前、午前、午後の水分摂取の記録や夜間自分で水分摂取が出来るように考慮する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し職員全員が目を通すように指導している。		利用者の介助後の手洗い、食事準備前の手洗い等を徹底している。感染症とその予防対策を教育している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事を作る前の手洗いと調理器具の洗浄の方法をマニュアルを使用している調理後は外に置きっぱなしにしない。		毎週2回の食材の調達を行い、食材管理には十分注意し、厨房の清潔管理を徹底している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉はam8：00～pm17：00までは施錠せず、玄関は天気の良い日は開けて、花を植えるなど閉塞感を除くようにしている。	○	玄関、居室からのチャイムには敏速に対応できるように、日ごろから職員の意思統一を図っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、その季節の行事などの飾りなどを行う。又不快な音をたてたりしないように指導している。		寒暖の室温調整、換気等に気配りする。トイレ、浴室、居室の清掃を毎日行い、清潔管理を職員が周知している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置くなどして個人の好む居場所を確保している。		利用者同志の人間関係や、好みの居場所を知り、落ち着いて過ごしていただけるように配慮している。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持って来て頂いている。 又仏壇などの持参もされている。		室温、寝具は昼夜を問わず気にかける。寝具や衣 類の入れ替えなどはご家族に連絡し相談して行っ ている。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	天気の良い日は毎朝空気を入れ替えをし、午前中 は網戸にするなどしている。又室温は26度ぐら いとしている。		室温調整、換気に注意し、外気の温度との格差を なくすようにその必要性を折りに触れ職員に話し 意識付けを行っている。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	玄関周りや出入り口、ホールには危険な物は置か ない。ホールや廊下又トイレや風呂場には手すり を取りつけている。		廊下の手すりやバランスボール等を利用し、立位 訓練、下肢の浮腫の軽減や筋力維持、増強を図る 取り組みをしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	共同のトイレには表札をし、居室の分からない方 には写真を飾ったり迷わないようにしている。		住み慣れた場所の移動を避け、居室やその場所が 解らからなくなった時はやさしく、さり気なく誘 導する。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	庭には季節の野菜や花を植え、ベランダには花の 鉢を置くなどし自由に出入りできるようにしてい る。		玄関周りや庭の植木、草花等周囲への関心を引き だす工夫をし、声かけや誘いだしにより関心を引 き出す。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない  契約時にその人の生きてきた人生を聴くことにより、また、日々暮らしの中での会話で理解している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない  園芸、折り紙、塗り絵、歌や散歩と、その人のペースで過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  一人ひとりが自由に自分のペースで過ごしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  利用者の行動を常に注意し、強制することなく、その人その人に応じた対応で笑顔が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  国道沿いであり、一人での外出は危険であり、希望時には職員が付き添っている。また、ドライブなど週2～3回は行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  身体不調時には看護師と医師との連携で状態に応じた対応をしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  利用者の状態に応じた対応をしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない  面会時や運営推進会のときに要望等きいている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない  地域への発信がまだ十分でなくこれからは積極的に取り組んでいきたい。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない  香南市の職員の方や民生委員の方よりいろいろとアドバイスを頂き少しずつ増えている。
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない  ほぼ全員が生き活きとしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

地域の方に理解していただけるように、散歩時、お会いした時には挨拶を心がけている。また、氏神さまの草引きなど行っている。  
利用者の方の持てる能力を維持できるように、生活リハビリや、周囲への関心を引き出す等で、認知症の進行を防ぎ、改善できることを目指す。  
利用者の体調管理を行い、元気に生活できるように援助し、安心、安楽に日々を送って頂く。  
症状の悪化や転倒等の事故には速やかに対応できるように、関連病院・ご家族との連携を密にしていく。